



ウトナイの子

【教育目標】 夢をいだき 未来を拓くたくましい ウトナイの子の育成

令和2年12月1日

第8号

Tel 57-6700

Fax 57-6715

ICT教育の推進について

校長 丹野 靖彦

現在、グローバル化、少子高齢社会、生産年齢人口の急減と、それに伴い、労働の多くが人工知能やコンピュータに代替されている時代になっていくことが予想されています。コロナ禍の中では、3密をさけるためにすでに労働力の一部をロボット化することを促進する動きが顕著になるなど、社会が大きく変わっていきようとしています。社会が変わるといことは、その未来に生きる子どもたちという視点からも今までとは求められる学力も変わってきます。知識から正解を素早く出すことよりも、解決すべき課題を発見する力や、学び続ける強い意志、協働により課題解決の見通しをもち、様々な人の英知の結集で切り拓く力こそが重要となってきています。まさにコロナ対応でそうした力が求められています。

学校では、子どもたちの情報活用能力を高め、課題解決のためのプログラミング的思考を育み、協働的な学習を進めるという観点からも ICT 教育の充実を今後図っていくこととなります。国が進めている GIGA スクール構想もその一つであり、本校の子どもたちにも年度末に向け、一人一台使用できるタブレットコンピュータが配備されます。調べ学習等で活用するだけではなく、協働でプレゼンテーションを作成し、考えを効果的に表現する力を育成したりします。ICT 教育が進むとコミュニケーション能力の育成を心配する声も聞かれますが、協働的に学習するためのツールとして活用することで、むしろコミュニケーション能力を高めていくことを意図しています。

一方で6月の学校便りでも書きましたが、ICTを推進するには、ネット上のモラル等についても同時に教育していく必要があります。ネット社会は、匿名性が高く、そのため何を発信しても大丈夫という誤解が生まれ、他人を強く非難したり、一方通行の正義を振りかざしネットいじめをしたりするなどの問題が見られます。オンラインゲームなどでも非常に見るに堪えない言葉が飛び交っています。しばしば、個人情報の保護ということで匿名性が重要視されますが、匿名でなければ言えない意見や、自分の名前を出して意見を言えない雰囲気や環境は、学校教育で目指す姿とはいえません。協働的に課題を発見し共に解決する力を育てていくときに、匿名性よりも個々の意見や思いを尊重できる集団性の方が重要になってくると言われています。

ウトナイ小学校も12月を迎え、保護者の皆様にも学校評価アンケートにご協力いただき、今年度の学校経営を評価・検証し、次年度に向けた計画作成を進めて参ります。そうした学校改善においては、学校職員と保護者が顔をつきあわせ（オンラインや書面等かもしれませんが）、お互いの気持ちが見えることを大切にしていきたいと考えています。そのために多くのアンケート等を実名でお願いしているところです。どんなにICTが進んでも、子どもの成長を願う保護者の皆様と学校職員が協働的に取り組む姿勢、言い換えると子どもへの大人からの愛が大切なことは、今後も変わらないことだと思います。

令和2年も今月で終わりです。学校も2学期終了まであと少しですが、子どもたちが心温まる年末を過ごしていけるよう、コロナ対策を続けつつ、学力向上や豊かな心の育成について、気を引き締めて進めて参ります。